

Release Notes

NITRO-SDK

2007/12/10

任天堂株式会社

Version: NitroSDK-4.2

本パッケージについて

本パッケージはニンテンドーDS（開発コード NITRO）のアプリケーションを開発するための基本ライブラリセットです。NITRO のアプリケーションの開発効率を高めるためにさまざまな API が用意されて、ハードウェアレジスタを抽象化し、視認性の高いソースコードを作成するお手伝いをいたします。またメモリや割り込みなどのシステムリソース管理の標準的な機構をご提供いたします。

パッケージに含まれるもの

- NITRO-SDK ライブラリ（グラフィックス・OSシステム サブプロセッサ用コンポーネント etc）
- オンライン版関数リファレンスマニュアル
- NITRO機能別デモプログラム
- 開発ターゲットの切り替えを統合したmakeシステム

変更点について

NITRO-SDK 4.2 までにリリースされた個々のパッケージでの変更点については、オンライン関数リファレンスマニュアル中の「NITRO-SDK 4.2までの変更履歴」の頁をご参照ください。

主だった変更箇所は以下の通りです。

- CARD ライブラリで、FLASH デバイス用書き込み関数を追加しました。
- CARD ライブラリが、64Mb-FLASH に対応しました。
- GX ライブラリで、NITRO-SDK 4.1 で追加された GX_SetVCount 関数の制限が不十分であったため修正し、制限を強化しました。
- MATH ライブラリで、MATH_CountLeadingZeros 関数のコードサイズと実行速度改善のため、thumb コード用ライブラリでも ARM コードに切り替えて CLZ 命令を呼び出すよう変更しました。
- MI ライブラリで、LZ77 圧縮の拡張フォーマットを追加しました。
- WBT ライブラリで、複数子機へのブロック転送に関する不具合を修正しました。
- WFS ライブラリで、WFS_ExecuteRomServerThread 関数のメモリリークを修正しました。
- WM ライブラリで、WM_SetMPDataToPort* 関数の送信サイズ制限を変更しました。
- WM ライブラリで、親機が WMParentParam.childMaxSize で指定した子機送信容量より大きな値を後から子機送信容量として指定できませんでしたが、この制限を廃止しました。
- WM ライブラリで、電源 LED を変則点滅させずにビーコンのパッシブスキャンを行なうための関数を追加しました。
- nitrocomp ツールに新規オプションを追加しました。
- Wii の mpdIntr2rvl サンプルデモが DataSharing を使用するようになったことに伴い、wmPadRead-child サンプルデモの仕様を変更しました。
- その他、既存の各ライブラリに修正および機能追加を行いました。